

最近の道内経済動向

○道内景気は、住宅建築に弱い動きがみられるものの、観光入込客数の増勢持続、設備投資の堅調さなどから、全体としては持ち直している。

○先行きは、公共工事が減速基調で推移するものの、観光の好調さに加え、個人消費・設備投資で持ち直しの動きが続くとみられることから、全体では堅調さを維持しよう。

※基調判断は、2018.5.2時点で入手可能な主要経済指標を参考とした（3月実績が中心）。

●個人消費は持ち直し基調にある

3月の主要6業態別小売店の合計販売額（全店）は前年比2.1%増となり、15カ月連続で前年実績を上回った。気温が高めに推移したことや、早い雪解けに伴い春物衣料などの販売が好調だったこと、インバウンド消費の好調さ持続などが押し上げ要因となり、5業態で前年実績を上回った。3月の乗用車新車販売台数（軽含む）は同0.9%増となった。新型車投入効果の一巡などを背景とする小型車の落ち込みを、普通車及び軽自動車は補い、全体では5カ月ぶりに前年実績を上回った。

（注）主要6業態とは、百貨店、スーパー、コンビニエンスストア、家電大型専門店、ドラッグストア、及びホームセンターを指す。

●設備投資は持ち直し基調、公共工事は減速している、住宅建築は減少傾向にある

北海道財務局発表の法人企業景気予測調査（1-3月期）によると、17年度下期の設備投資計画（全産業、含むソフトウェア、除く土地）は、前年同期比20.5%増（製造業：同28.9%増、非製造業：同16.7%増）。また、18年度上期は同5.6%増（製造業：同▲12.9%増、非製造業：同22.7%増）と、伸び率は17年度上期（同23.7%）より鈍化するものの増加基調を維持。公共工事請負金額（3月）は、前年比▲29.7%（1,022億4,900万円）と2カ月連続で前年実績を下回り、発注機関別では、災害復旧工事のはく落を主因に国、道、市町村が大きく減少した。なお、1-3月期では5四半期ぶりに前年同期実績を下回った。新設住宅着工戸数（3月）は、前年比7.7%増と6カ月ぶりに増加した。分譲マンション（同292.3%増）が、1、2月とも着工のなかった反動で全体を押し上げた。

●生産は横ばい圏内で推移している

鉱工業生産（2月）は、前月比0.2%上昇と2カ月ぶりに上昇した。生産設備のトラブルで「包装用紙」が減産となったパルプ・紙・紙加工品（同▲2.2%）など9業種が低下。一方、PCサーバー向け「集積回路」が増産となった電気機械（同1.0%上昇）、値上げ前の駆け込み需要やリニューアル商品の好調さから「ビール」が増産となった食料品（同3.4%上昇）など7業種が上昇した。

●輸出は弱含んでいる

3月の通関輸出額（速報値）は前年比▲22.6%（342億円）となり、2カ月連続で前年実績を下回った。韓国向け「鉄鋼くず」などが前年実績を上回ったものの、中東向け「管・管用継手」、韓国向け「石油製品」などが全体を下押しした。

●観光は拡大している

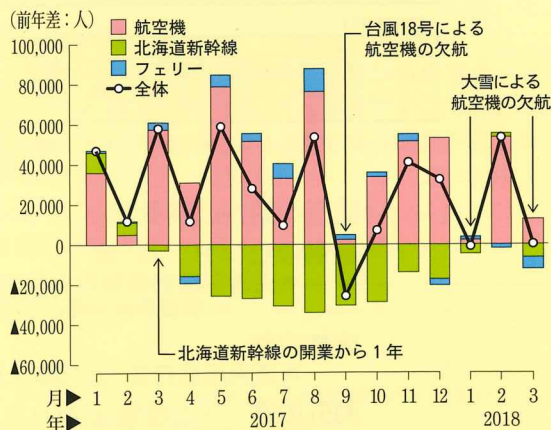
国内客が中心となる3月の来道者数（国内交通機関経由）は、前年比0.0%増と前年並みに留まった。全体の約9割を占める航空機利用客数が大雪による欠航などで伸び悩んだことが要因。一方、外国人入国者数（3月）は、同32.4%増と22カ月連続で前年実績を上回った。

●雇用情勢は回復している

3月の有効求人倍率（パート含む常用）は前年比0.09ポイント上昇の1.14倍と、98カ月連続で前年実績を上回った。ただし、職種・地域間では、雇用のミスマッチが見受けられる。

「来道者数」^(注)の推移（輸送機関別）

来道者数の前年差推移を輸送機関別にみると、北海道新幹線の開業効果が17年春以降に見られたものの、足元では影響が一巡した模様。この間、航空機は、悪天候による欠航便の増加で一時的に伸び悩んだ月がみられたものの、新千歳空港の発着枠拡大などを背景に増加基調で推移し、全体の押し上げに寄与している。



（注）「来道者数」は国内交通機関による輸送人員数であり、「航空機（旅客数）」には海外からの直行便は含まれない。
（出所）（公社）北海道観光振興機構「来道者調査」